

## 知事臨時記者会見

■日時 令和3年8月23日（月）17:30～17:50

■会場 応接室

## 【質問事項】

## 1 新型コロナウイルス感染症への対応について

## 【記者】

先ほどの福島県新型コロナウイルス感染症対策本部員会議で、県立医大の仲村先生から、第5波は、まだピークが見えていないという指摘がありました。この辺りの危機感というか、県内の危機的状況について認識を伺います。それと、聞き間違いでなければ、知事は最後に「申し訳ない」と思わず言葉にされたかと思いますが、その辺りも含めての呼び掛け、思いについて伺います。

## 【知事】

本県における新型コロナウイルス感染症の状況ですが、やはりこの五つの指標、七つの区分で見ても、ステージ4が三つ、ステージ3が三つという状況にあり、先週、先々週と比べても、より厳しい状況になっています。そういう中で、特にこの病床使用率がポイントになりますが、県全体では58%です。ただ、県北地域における病床の使用率は73%であり、県平均と比べると明らかにひっ迫率が違います。

こういう状況の中で、特に福島市において、この1週間ほどで急激な上昇傾向が見られます。したがって、いわき市、郡山市に加え、福島市をまん延防止等重点措置の対象にし、福島県内の中核市3市を全て、まん延防止等重点措置の対象にすることによって、この急激な感染拡大を何としても抑え込んでいきたいという思いがあります。

特に、この郡山市、福島市であります。県独自の集中対策を行って、ある程度落ちついた時期もありました。郡山市も福島市も同様であります。その後、様々な対策を講じているにも関わらず、上昇傾向にあり、まだそれが落ち着くという状況にはありません。したがって、仲村先生が心配されているピークが見えないというところは、その点にもあろうかと思えます。

また一方で、いわき市であります。まん延防止等重点措置の要請を行い、その後、高止まりして、最近はある程度落ちついていく傾向が見られます。いわき市は、最も早くまん延防止等重点措置を適用している地域ですので、今後、郡山市や、これから適用される福島市においても、いわき市と同様に、まん延防止等重点措置をしっかりとかけていく中で、感染の急拡大に一定の歯止めをかけることができるのではないかと期待しています。

ただ、その際に大切なことは、やはり市民、事業者の皆さんの御協力であります。いわき市、郡山市、福島市の皆さんには、他の56の市町村より強い制約、制限をかけることになることから、先ほど、そういう点に対して、申し訳ないという思いを率直に申し上げました。

ただ、逆に言うと、そういった制限をお願いせざるを得ないぐらい、今の3市の感染状況が厳しいということでもあります。そして特に、いわき市と郡山市においては、病床のひっ迫具合が県北地方以上に厳しいという部分があって、自宅療養者が一番多いのは、いわき市と郡山市であります。福島市は、まだ率直に言って比較的少ない状況にあり、自宅療養者の数を抑えていきたいという思いも、我々は当然持っておりますので、そういう意味でも、市民の皆さん、あるいは飲食店、大規模商業施設も含めて、まん延防止等重点措置という強い制約、制限ではありますが、何とか御理解と御協力を頂きたいという切なる思いを持っています。

特に、（まん延防止等重点措置の）期限は9月12日までです。お盆、夏休みの中での帰省・旅行は、時期的にも一段落してくると思います。また、福島県の人口180万人のほぼ半数が、このまん延防止等重点措置が適用される中核市3市に集中していますので、この地域の方々の御努力と、それ以外の56市町村の皆さんに協力していただくことで、感染を抑え込むことができるのではないかと期待しております。

## 【記者】

改めてですが、先ほどの本部員会議の中で、この中核市3市については、他の地域への影響も大きいという発言がありました。県独自の対策を行っている他の地域における延長の可能性について教えてください。

## 【知事】

今、正に56市町村の対応をどうしようかということについて、議論を進めているところであり、あります。実際に、最近の陽性者数の動向を見ますと、いわき市が若干の抑制傾向、郡山市、福島市が上昇傾向、そしてそれ以外の56市町村がありますが、ある程度上がった後、少し下がっているという状況であります。（56市町村が）ここで上がっている状況ですが、先ほど言った中核市との経済面、教育面、あるいは様々な生活圏と非常にリンクしていますので、例えば、郡山市が増えると須賀川市であったり、周辺（市町村）がやはり増えてくる。いわき市（の数値）が動くと、また周辺の市町村が動く。福島市が増えると、伊達市と二本松市が増えるといった状況があります。

したがって、まず何とかこの3市を抑え込んでいく中で、集中対策の期限については、今月末にしていますが、どうするか悩んでいるところでもあります。また、明日の感染状況や、その次の状況を見ながら、いずれにしても今週の後半には決めていかなければいけません。

ただ、午前中の会見でも申し上げましたように、福島県における感染者の動向だけでなく、東京を始めとした首都圏、それと北関東の状況、さらには福島県の隣県である宮城、新潟、山形、こういったところの動向も、先ほどの生活圏の話と一緒にして、お互い非常に影響が強いという部分がありますので、こういったものも見極めながら検討していきたいと思えます。

ただ、できれば今月末で終わりたいという思いもありますが、今の数字もステージ4に近い状況でありますので、まだ安定的ではないなというのが率直な印象であります。

## 【記者】

飲食店の関係ですが、福島市は今回の要請理由の一つとして、市内飲食店で集中対策期間にも関わらず8時以降に営業した飲食店のクラスターを挙げています。また、繁華街の巡回調査などで、深夜営業している店舗が20軒あることも把握しているそうです。

先ほどの本部員会議でも、改めて知事から時短要請の呼び掛けがありましたが、現在、時短要請に応じていない飲食店の現状について、県ではどのように把握しているか伺います。

## 【知事】

まず、まん延防止等重点措置をいわき市と郡山市で先行して（適用して）います。そして、それ以外の市町村においては県独自の集中対策を講じておりますが、これらについて、それぞれの地域の地方振興局と関係市町村のお力をお借りしながら、共に夜回り、見回りを行っています。多くのお店では、しっかり御協力を頂いており、その点については改めて感謝を申し上げたいと思えます。

一方で、今お話があったとおり、一部の店舗では、それぞれ理由があって協力できないという状況が残っています。先行しているいわき市においても、当初は（協力いただけない店舗も）若干ありましたが、見回り等を行って説明をしていく中で、大分減ってきました。

しかし、それでもまだ残っている店舗があります。そこはしっかり把握していますので、振興局、いわき市で協力し、丁寧に御説明しながら、御協力を依頼しているところです。

まん延防止等重点措置においては、御承知のとおり、罰則の適用というものも制度としてあります。もちろん、事業者の皆さん自身も、それぞれの事情等があることは理解しておりますが、やはり、エリア全体として感染を抑え込んでいかないと、この感染の急拡大が、いつまでたっても止まらないということになってしまいます。

本日、市長とも意見交換しましたが、特に、最近の福島市の状況等を見ていると、やはり遅い

時間まで営業されていて、それが非常に大きなクラスターになっていたり、あるいはクラスターになっていなくても、完全に飲食店由来の感染というものもあると聞いています。今回、福島市を新たにまん延防止等重点措置の対象にすることによって、これまで以上に見回りを丁寧に行い、1軒1軒の店の御理解を頂けるように、福島市と連携しながら取り組んでいきたいと思っています。

【記者】

今、話の出た命令と過料の関係についてですが、先日、いわきのまん延防止等重点措置が適用された際に、知事からは「できれば使わずに協力をお願いしたい」という発言がありました。その考えは今も変わらないか、また将来的に適用の考えが有るかについて伺います。

【知事】

やはりこういったものについては、使わずして御理解を頂けるというのが、もちろんベストな選択だと考えています。

一方で、既に非常に厳しい状況の中でも「感染対策のためだからやむを得ない」と言って御協力いただいている多くの事業者さんから見た「公平感」という議論もあろうかと思っています。

特にいわき市の場合、まん延防止等重点措置を適用してから、ある程度の期間が経っていますので、今後、現場の状況等も見ながら、制度の趣旨も考えて慎重に対応していきたいと思っています。

【記者】

（福島市への）まん延防止等重点措置の適用について、これまでのいわき市、郡山市に比べると、感染者数や病床の使用率等、まだ大分早い段階での判断だったと思いますが、このタイミング（での適用）について知事の考えを伺います。

【知事】

今日も福島市長と直接意見交換していますが、今、御指摘がありましたとおり、いわき市、郡山市に比べると、1週間の10万人当たりの新規感染者数の数値で言えば、比較的早いタイミングでのまん延防止等重点措置の適用ということになるかと思っています。

今、（適用期間について）9月12日までという目標となっていますが、やはり、こういった取組を早く行うことで、早期に急激な感染拡大を収束させることができる可能性が高まると考えています。早く手を打つことによって早期に収束させる（ことができる）と。実際、以前、県独自の対策を福島市にかけたときも、実現することができています。「是非、今回も同じように早期収束に向けて一緒に取り組みましょう」というお話を市長としたところです。

また、先ほど言ったとおり、夏休みやお盆に伴う帰省・旅行、こういったものは、ある程度落ち着いてくると思いますが、今回の福島市は他の地域以上に、飲食店由来のものが多いです。

まん延防止等重点措置が、「飲食店に対してお酒の提供を自粛してください」ということをお願いする強い制約、制限を持っていますので、やはり今の福島市の感染の状況を考えた場合、まん延防止等重点措置を早期に適用することによって、飲食店由来のクラスターや、感染者の発現を抑えるという意味では、効果が出てくるのではないかと考えています。

【記者】

確認ですが、まん延防止等重点措置の適用によって、命令・過料というのは今のところ現段階で出されていないということでしょうか伺います。

【知事】

はい、そのとおりです。

【記者】

わかりました。

もう1点ですが、本部員会議でも、先日から、「県民一丸となって」という言葉を知事は使われていると思いますが、そういう意味では、県の独自対策も9月12日までやったほうが、私から見ればいいのではないかと思います、そこをあえて9月12日まで単純に延長しない理由について伺います。

#### 【知事】

まず、まん延防止等重点措置は、国の特別措置法に基づいて、政府から指定を受けて実施しているものでございます。したがって国の制度での措置（であり）、一方で、現在、56の市町村にお願いしております集中対策は、特別措置法に根拠はありますが、県独自の措置として、知事が判断して対応しているものです。

したがって制度としては別立てでありますし、内容も相当違うという現実があります。適用期間等についても、まん延防止等重点措置を適用する際に県独自措置を行うのであれば、最初から同じ期間で適用することも可能ですが、御承知のとおり、今回は、それぞれの自治体が、それぞれのタイミングで動いており、県独自の集中対策は8月31日までということで行っています。

加えて、実際に感染状況をとってみてもそうですが、地域によって相当異なります。先ほど、56市町村（の状況について）、この緑のグラフでお示しましたが、現実には56市町村の中のほとんどの自治体が（感染者数が）ほぼゼロ、あるいは1人というような状況でありますので、こういった中核市3市のような比較的大きい都市ならではの特殊な状況と、それ以外（56市町村）を単純に連動させるということは、必ずしも無いかなと思います。

ただ、先ほども言ったとおり、全体としてこの56市町村の値を見ますと、残念ながらステージ4に近いステージ3でありますので、今ほどの「県民一丸となって」という言葉を使うならばというお話、私も心の中に、同じように思う部分がございます。そういった思いも含めて、今後の数日間の感染状況を見ながら、ぎりぎりまで、どのような良い形でバランスをとるか悩んでいきたいと思います。

#### 【記者】

感染のピークが見えない中で更に感染が拡大した場合、次の選択肢として、例えば緊急事態宣言の要請など、現時点で考えているものがあるか伺います。

また、全国的な対応として、先日の全国知事会の中で知事が話されましたが、「人の移動を更に大きく減少させるような強い対策が必要である」という話でしたが、それについて想定しているものがあるか併せて伺います。

#### 【知事】

まず、後段の方のお話からお答えします。

率直に言いまして、全国における人流、人の流れを抑制する一番大事なポイントは、夏休み時期、特にお盆の時期だったと思います。したがって、全国知事会も幾度もウェブでの会議を行っていますが、人の流れを止めるという強い訴えかけを国民にするのであれば、やはり夏休みの前半、できればもう少し前の段階で講じておかないと、遅かったかなという思いを持っています。

福島県自身は大分前から、「（旅行、帰省等について）原則中止または延期をしてください」、いわゆる「極力帰省をしないでください」という言い方よりも強い表現で、県民の皆さんにお願いしてきました。一定の効果はあって、本当に御家族に会いたいのに（帰省等を）我慢していただいているというお話もたくさん聞いておりますし、旅行も行くつもりだったけどキャンセルしたというお話も聞いております。そういう御理解を頂いた方が多くいる一方で、それぞれの御事情もあるかと思いますが、結果として帰省されている方も、相当数おられたと思います。現実には駅の様況、それから、パーキングエリア等の状況を見ますと、ある程度の方が入って来ていたという現実がありますので、ああいった全国的な人流を止めるのであれば、夏休みの前か、あるいは初期の段階でかけないと、これからという意味ではちょっと、本来の目的からすると、どうかと思う部分が率直に言ってございます。

次に、前段の方の話になります。本県においては、今一番厳しかった状況のいわき市が、市民の皆さんと事業者の皆さんの御協力もあって、ある程度落ちついてきました。しかし、そこに福島市と郡山市が逆に増加し、プラスマイナスで相殺する形になっていますので、県全体としてはもちろん予断は許さないところがあります。ただ、一時期の最悪の状況に比べると、新規陽性者数が若干下がってきておりますし、病床の使用率も分母を今増やしておりますので、急激な容体変化等あった場合でも、当然受け入れるキャパシティがございますし、あと重症の方は当たり前ですが、中等症の方もきちっと受け入れる医療環境を、医療機関の皆さんの御協力で作られています。こういった中で、日々の感染者数を着実に減らしていけば、何とか回せる体制をつくれているかなという思いを持っています。

他の県の状況を見ていますと、福島も厳しいのですが、それ以上にきつい状態になっていますので、やはり一切気を緩めることなく、県民の皆さんと事業者の皆さんに、まん延防止等重点措置と、県独自の集中対策を強くお願いして協力を頂いていく中で、特にステージ4で(政府に)要請することになる「緊急事態宣言」には行かず、今の状況の中で抑え込んでいきたいと、知事として強く思っております。

(終了)